

令和 4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		予防接種事業		担当課 保健センター
総合計画	政策	ひと		計画期間 年度～
	施策	健康づくりの推進		種別 法定事務
	基本事業（取組）	感染症の予防・拡大防止		市民協働
予算科目コード		01-040102-18 単独	根拠法令・条例等	予防接種法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
定期予防接種は、感染症の重症化予防、感染症の発生及び蔓延予防を目的に、予防接種法に基づき実施している。小児の任意予防接種は子育て世代の負担軽減、感染の恐れがある疾病の発生及び蔓延を予防するため費用助成を実施している。高齢者の任意予防接種である肺炎球菌予防接種は、定期予防接種年齢以外の方に接種の機会を確保し、肺炎による重症化を防ぐことを目的に費用助成を実施している。	小児に対する予防接種は、保護者同伴で医療機関においてヒブ、小児肺炎球菌、B型肝炎、ロタウイルス、BCG、四種混合、不活化ポリオ、水痘、麻しん風しん混合（MR）、麻しん、風しん、二種混合、日本脳炎、子宮頸がん、おたふくかぜ、インフルエンザの予防接種を行う。 令和元年度より、対象者に対し、風しんの抗体検査を実施し、抗体価が不足している方に対し、風しんの予防接種を行う。 高齢者に対する予防接種は、対象者に予診票を個別通知し、医療機関で接種した接種費用の一部を医療機関窓口もしくは償還払いにて助成する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
感染症の重症化予防と発生及び蔓延を防ぐ。	
（参考）基本事業の目指す姿	
子どもと保護者が、ともに健やかな生活を送ることができるように健康管理を行う。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
現状では各予防接種で高い接種率で推移している。今後も接種率維持のため、周知方法の工夫と未接種者対策を継続していく。 MR 2期 28年度96.4% 29年度97.2% 30年度99.1% 二種混合 28年度92.5% 29年度94.6% 30年度93.5% 二種混合については、11歳より接種開始になるため、これまで小学6年生になった4月に勧奨を行っていたが、接種済みで転入してくる児もあるため、予防接種法に合わせていく必要がある。	【接種勧奨】 ＜定期予防接種全般＞ ・新生児訪問、乳幼児健診等で予防接種状況の確認と接種勧奨を実施（通年）。 ・もりや子育てナビで対象年齢に合わせた予防接種のお知らせを送信（通年）。 ・就学時健診の講話にて、参加者全員に接種勧奨を実施。（10月） ＜MR＞ ・MR1期の未接種者に対し、1歳6か月健診時に個別で接種状況を把握し、未接種者に接種勧奨を実施。2歳前に電話または通知で接種勧奨を実施。（通年） ・MR2期の未接種者に対し、12月に通知による勧奨、3月に電話による勧奨を実施。 ＜二種混合＞ ・未接種者のうち、接種期限の2か月前に、通知による接種勧奨を実施。（通年）令和2年度は、小学6年への通知の他、11歳誕生月に勧奨通知を出す。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
今後も接種率維持のため、健診時の個別勧奨、個別通知、モバイル、ホームページなど、様々な媒体を活用した接種勧奨を実施する。 また、感染症の流行状況やワクチンの流通状況等、最新の情報を把握し、医療機関との情報共有を徹底することで、接種環境の整備に努める。 二種混合については、11歳誕生日月に勧奨することで、二重接種を防ぐほか、被接種者が接種できる期間を長くとり、接種率向上に努める。	【医療機関との情報共有】 ・市内医療機関会議（年2回開催）にて、接種率や接種勧奨方法などの情報提供を行うとともに、医療機関の最新状況を把握する。
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☐維持 ☐削減	

R03年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R04年度の振り返り）	
R03年度の評価（課題）	R04年度 of 取組（評価、課題への対応）
各予防接種は高い接種率で推移している。今後も接種率維持のために、周知方法の工夫や未接種者対策、接種環境の整備を継続していく。	○接種率維持のため、健診時の個別勧奨、個別通知、モバイル、ホームページなど様々な媒体を活用した接種勧奨を実施した。 ○接種環境の整備については、感染症の流行状況やワクチンの流通状況等、最新の情報を把握し医療機関との情報共有を徹底した。 ○未接種者勧奨については、BCG、MR 1 期・2 期、二種混合・HPVキャッチアップ対象者・日本脳炎特例対象者に対し、早めに勧奨通知や連絡を入れ、接種できる期間を長くとり接種率向上に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	目標値（R08）
1歳6カ月までに四種混合の接種を終了している者の割合（％）	99.50	98.20	98.80	99.50	98.80	98.70	100.00
高齢者のインフルエンザ予防接種率（％）	65.30	42.90	52.20	65.30	59.50	63.60	70.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	小児の各種予防接種は全体的に高い接種率で推移しているが、高齢者インフルエンザの接種率は60％前後を推移している。今後も接種率向上のために、周知方法の工夫や未接種者対策、接種環境の整備に努めていく。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	定期予防接種は、予防接種法に基づき実施している。引き続き感染症の重症化予防や発生及び蔓延を防ぐため実施していく。また、国の方針に基づき、電子予診票の導入など予防接種事務のデジタル化を進めていく。					

コストの推移						
項目		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	R06年度見込
事業費	計	191,461	183,334	232,144	331,085	331,085
	国・県支出金	11,164	6,679	5,438	3,595	3,595
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	180,297	176,655	226,706	327,490	327,490
正職員人工数（時間数）		1,267.00	1,418.00	1,283.00	0.00	0.00
正職員人件費		5,129	5,486	4,947	0	0
トータルコスト		196,590	188,820	237,091	331,085	331,085